

# 新嘗祭

今年江府町から献上

秋に宮中で執り行われる新嘗祭に、鳥取県代表として森田照男さん(江府町)が奉仕者に決定され、5月12日(火)に貝田原の斎田において神事と田植式が行われました。

新嘗祭は、天皇陛下自らその年の豊かな豊作に感謝し、新穀を天地の神々に捧げられるとともに、農家の労をねぎらい、来るべき年の豊作を祈願するという意義深い行事です。

江府町では、平成11年に献納されて以来、21年ぶりの奉仕となります。当日は、澄み渡る晴天の下、貝田集落の伝統芸能である「貝田傘踊り」の披露もあり、来賓の方々や集落の皆さんとともに秋の豊作を祈願しました。次の儀式は、9月の抜穂式(稲刈の儀式)です。

奉仕される森田照男さん・和江さんご夫妻はもとより、ご家族、集落等の関係者の方々も、無事秋に皇居へ献上されるまでの間、気の抜けない日々が続くこととなりますが、日野振興センターとしてもしっかりサポートをしていきたいと思っております。



斎田への記念田植



貝田傘踊り保存会による「貝田傘踊り」



大山をバックに記念撮影

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2024 FAX:0859-72-2090  
農林業振興課 農業振興室 電話:0859-72-2001 FAX:0859-72-2011

## あっとびっくり!! 快適! 安全! 機械化がすすんでいた林業の現場



林業の作業は、人がチェーンソーを持って木を伐り倒しているイメージでしょうか。それが今や過去の風景となりつつあります。

下の写真をご覧ください。これは、昨年度導入された林業専用機械です。木の伐採、枝払い、丸太づくり、木を掴む機械や運搬など様々な種類があります。最近では、伐採と掘削が同時にでき、木が生い茂る山に一台で作業道を作れる機械も開発され導入が進んでいます。



日南町森林組合に勢揃いした林業機械



伐採と掘削兼用マシン  
作業道づくりに使用

林業現場では、このような機械化が進みつつあり、人の手による作業は、機械が出来ない作業に限定されてきています。

機械化のメリットは、生産性が上がるのはもちろんですが、肉体的な負担が減り、安全性が高まることです。実際に現場では、チェーンソーで伐る作業と林業機械の操作を交代で行って、肉体的負担を減らしています。近頃は機械に乗りすぎて運動不足になるといった冗談も聞かれます。

右の写真は伐採と枝払い、丸太づくり機械(ハーベスタ)による間伐作業です。作業員(オペレータ)は、エアコンの効いたコックピット内でディスプレイを見ながら操作をします。さながらコンピュータゲームをするようで、「年中快適。すぐ慣れる。」と好評です。

こうした取組により作業環境が大きく改善されつつあるのが今の林業です。自然の中で、健康的で、環境に貢献する仕事として見直していただくと嬉しいですね。



ハーベスタの  
コックピット内



ハーベスタによる間伐作業

日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2007 FAX:0859-72-2125

## 入牧開始 ~日野郡の和牛放牧の取組~

日野郡には江府町下蚊屋の瓜菜沢放牧場(31ha)と、日南町印賀の日南町畜産センター和牛放牧場(18ha、以下「日南放牧場」)があり、地元の農家が妊娠中の和牛を放牧しています。今年、瓜菜沢放牧場は4月30日から16頭、日南放牧場は5月7日から14頭の入牧が始まりました。

瓜菜沢放牧場には、  
5戸16頭が  
入牧しました。



ダニがつかないように  
薬を塗布します。



放牧前の検査では、  
遠くからも見分けられるよう、  
脱色剤で牛の毛に  
番号をかきます。

放牧された牛は、広い放牧場を早速走り回り、  
牛群内の順位を決めるため喧嘩を始めたり  
しましたが、すぐに牧草を食べ始めました。



放牧中の和牛は牧草だけで過ごすため、農家にとって飼料費の削減につながるだけでなく、エサやりや牛糞処理などの作業が不要となり、省力化を図ることができます。また、自然の中で運動をした牛は母子とも元気で、安産になると言う農家の声もあります。放牧場では、1ヵ月に1回程度全頭健康検査を実施します。その時に農家は新たに妊娠が確定した牛を追加で放牧し、分娩が近づいた牛を牛舎へ連れ帰ります。昨年は、瓜菜沢放牧場で4戸のべ27頭が、日南放牧場では3戸のべ26頭が放牧されましたが、どちらの放牧場も放牧頭数は減少傾向にあります。

放牧は、草がなくなり雪が降り始める11月上旬頃に終牧となります。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2027 FAX:0859-72-2090